

令和 3 年度 校内研究
校内研究会研究授業
学習指導案
資料

外国語（英語）科 学 習 指 導 案

日 時	令和3年12月2日（木）1校時
場 所	視聴覚室
学 科	普通科
学 年	1学年
指 導 者	教諭 松 本 真紀江（MT） 教諭 三 笠 加奈子（ST）

1 単元名（題材名）「Show & Tell」

2 単元（題材）設定の理由

(1) 生徒観

普通科1年の生徒7名は知的障害と学習障害や自閉スペクトラム症などの発達を併せ有している。

本校入学までの英語の学習歴の幅は大きく、小学生のときから英会話教室に通っていた生徒、中学校1、2年生の基礎的な学習内容を一部理解できている生徒、挨拶や簡単な英単語を中心の授業を受けた生徒、また、英語の学習経験自体が少ない生徒が在籍している。中学校での学習の様子は様々であるが、英語に対して興味関心の高い生徒が多く、全体としては毎時間、意欲的に学習に取り組んでいる。ほとんどの生徒が板書やパワーポイントの提示、口頭による説明などで、学習目標や学習内容を理解し、学習することができている。しかし、文法事項や新出語の定着に時間を要するために、授業中の発問に対して自信をもって応答できる生徒は多くない。学習活動によって得手不得手が見受けられるため、苦手意識が強い活動や理解が不十分と思われる課題活動のときは、個別に指導・援助を行い、学習に参加できるよう配慮している。また、課題を早く終えた生徒が他の生徒に教えるなど、生徒同士で学び合う場面も見られる。

(2) 単元（題材）観

ア「生活との結びつき」

「Show & Tell」は、英語のスピーキングの学習方法の一つであり、また、欧米の小学校などで取り入れられている簡単なプレゼンテーションの技法である。自分にとって身近な物を実際に見せて（Show；展示）、それについて伝える（Tell；説明）。

本単元では、身近な学習用具である筆記具についての「発表」を通して、それらの語彙のほか、身の回りにある物の英語名について興味関心を高めるなど、日常生活の中にある英語、また、外国との結び付きについて考えたり、深めたりする機会としたい。

イ「何を学ぶか」

本単元の最終目標として、自分の筆記具ではなく、「クラスメイトの筆記具について英語で発表することができる」とした。

発表を行うために、筆記具の英語名のほか、疑問詞（How many）の用法（数を聞く表現と応答の仕方）について学習する。そして、クラスメイトに筆記具の数について質問をし、その結果を発表原稿にまとめる（He / She has 数と筆記具名。）。その際、一般動詞の三人称単数現在形のs、可算名詞複数形のsなどの文法事項についての説明はごく簡単に行う。そして、話す（やり取り）活

動や書く活動等を通して、単元の最終目標であるアウトプット活動「発表」を行う。仲間やALTの前で発表したり、仲間の発表を聞いたり、仲間の原稿を読んだりもする。

本単元での学習を通して、筆記具の英語名の知識を増やしたり、数を聞く表現と応答の仕方、また、持っているものを伝えたりする表現を学ぶ。

(3) 指導観（指導の工夫）

見通しをもって毎時間の学習に取り組めるよう単元構成を工夫した。単元開始時に最終目標である発表（Show & Tell）や学習予定を明確に伝える。発表のモデルを提示したり、疑問や感想を交流したりする場面を設定する。単元の最終目標から逆算した学習予定を作成し、毎時間、段階的な言語活動を行う。生徒自身が毎時間に学ぶ意味を理解し、主体的に学習に取り組めるよう努める。単元期間、「発表」というアウトプットを目指した総合的な言語活動を行いたい。

また、実態差を補うために、英語にルビのある・なしのワークシートの2種類を作成する。自分に合った学習課題を使って取り組んだり、分からない語彙はICT機器で検索したりできるよう環境を整える。生徒が日付や英単語を板書する活動や毎時間、生徒同士でやり取りを行う言語活動を設ける。また、生徒が英語や外国に関する「知りたい」と思うことがらについては、時間の許す限り、応じたい。

教場を「安全・安心・挑戦」の場にするために、称賛したり励ましたりするなどのプラスの言葉掛けに努めたり、間違いを恐れることなく安心して言語活動に取り組める和やかな雰囲気を作りたい。

(4) 評価観

題材の評価、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」については、1、2時間目の「インタビュー」活動、3時間目の「発表原稿作成」、4時間目の「Show & Tell」（発表）における各言語活動時の観察、ワークシートへの記入状況、自己評価によって評価する。モデルとなる英文を記載したワークシートを参考にしながら学習に取り組むことで、英語力の実態差が大きい学習集団でも一つの題材で評価できると考えている。

「学びに向かう力、人間性等」については、観察による学習の様子や生徒の毎時間の振り返りなどから、自分なりの工夫をしたり、自己調整を図りながら課題解決へ向けて粘り強い取組をしているかどうかを評価する。

本時は、「クラスメイトの筆記具について英語で発表する」という単元の最終目標や学習予定、また、目標達成へ向けて必要な「数を聞く表現とその応答の仕方」などを学習する。生徒が疑問詞（How many）の用法を理解し、応答できれば、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を学習できたことになる。

指導案作成の段階では、今までの生徒の状況から個別目標を設定しているが、前時の学習状況を評価し、本時の目標と援助の手立てを再設定し授業を進めたいと考えている。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	「学部・教科・段階・記号」の順 特高外 2-ア-(ア)	①疑問詞 (How many) の用法を知り、相手に質問したり、応答したりすることができる。 ②筆記具の語彙の知識を増やすことができる。	①新しく学んだ表現を用いてやりとりしている。(観察) ②英語で表現(話す・書く)している。(観察・ワークシート)
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	例) 高職2Aイ (ア)㊦㊧ 特高外 2-イ-(ア) 特高外 2-ウ-(イ)(ウ)	①数を聞く表現を理解し、相手に質問したり、それに適切に応答したりできる。 ②相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。	①聞かれている事柄を理解したり、適切に応答したりしている。(観察) ②英文で書いたり、発表したりする。(ワークシート、観察)
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全		学習課題の解決へ向けて、自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。	工夫や自己調整を図りながら各学習活動に取り組んでいる。(観察・ワークシート)。

4 指導計画（全4時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 学びの場の設定【主】【対】【深】	備 考
12/2(木)	1	○本単元の最終目標「Show & Tell」、学習予定 【主】 ○数を聞く表現 【主・対】 ○語彙調べ 【主】	本時 (1/4) 「聞く」「話す(やりとり)」「書く」
12/6 (月)	1	○クラスメイトにインタビュー 【主・対】	「話す(やりとり)」
12/13(月)	1	○発表原稿製作 【対・深】	「読む」「書く」
12/20(月)	1	・「Show & Tell」 【主・対・深】 ・振り返り 【主・深】	「話す(発表)」「聞く」「読む」 ALT 来校

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
A.T	- ローマ字の知識は自分の名前の読み書き程度である。英文を読んだり、書いたりすることは難しい。 - 口頭による指示理解が難しいときがある。ICT 使用時の学習効果が高い。 - 例文を提示すると課題に沿ったコミュニケーション活動を行うことができる。	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	- ワークシートを見ながら、相手に質問したり、簡単な表現で応答したりできる。 - 相手から聞き取ったことがらを教師と一緒にまとめたり、発表したりできる。
		主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。

I.H	- 英語に対する興味関心が高く、積極的に発言ができる。教科書程度の単語、英文であれば読むことができる。 - 書字の際、乱雑な文字になりがちである。 - 文法事項を習得したり、正しく運用したりすることは難しいが、例文を提示すると自信をもってやりとりができる。	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - 筆記具名の語彙を増やす。
		思・判・表	- ワークシートを使いながら、相手に質問したり、応答したりできる。 - モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。
K.T	- 授業への出席は4月1時間(オリエンテーション)のみである。 - 提示された例文を参考にして、自己紹介文を作ったり、クラスで発表したりすることができた。	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	ワークシートを見ながら、相手に質問することができる。
		主体的	教師と一緒に学習課題に取り組もうとすることができる。
S.N	- 英語に対する興味関心が高い。中学校2年生程度の部分的な知識がある。興味のある事柄に関する単語の知識が豊富である。 - 文字を丁寧に書くことができるが、時間を要する。	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - 筆記具名の語彙を増やす。
		思・判・表	- ワークシートを使いながら、相手に質問したり、応答したりできる。 - モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	周りのペースに合わせながら、学習に取り組もうとすることができる。
S.R	- 消極的な授業参加に見受けられるが、英語に対する興味関心は高い。知識の定着を図ることが難しいと自身で感じている。 - 例文を提示すると自信をもってやりとりができる。	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	- ワークシートを見ながら、相手に質問したり、応答したりできる。 - モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。
T.H	- 英語に対する興味・関心が高く、積極的に質問することができる。 - ICT 使用時の単語入力など、効率的な方法を考え、行うことができる。 - 書字の際、乱雑な文字になりがちである。 - 英単語の習得などに時間を要するが、例文を提示すると自信をもってやりとりができる。	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	- ワークシートを見ながら、相手に質問したり、簡単な表現で応答したりできる。 - モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。
T.R	- アルファベットやローマ字の知識がある。食べ物の名前などを英語で言い表すことができる。 - 英語の学習に対して不安感が見られるが、繰り返し学習すると自信をもって活動できる。 - 例文を提示するとやりとりができる。	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	- ワークシートを見ながら、相手に質問したり、適切に応答したりできる。 - モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	- 疑問詞（How many）の用法を知る。 - 筆記具名を知る。	新しく学んだ表現を用いて、仲間に質問することができている（観察）。
思考力、判断力、表現力等	数を聞く表現を理解し、質問したり、応答したりすることができる。	聞かれている事柄を理解したり、適切に応答したりしている。（観察）
学びに向かう力、人間性等	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	仲間とやり取りしようとしたり、語彙検索に取り組んだりしている（観察・ワークシート）。

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

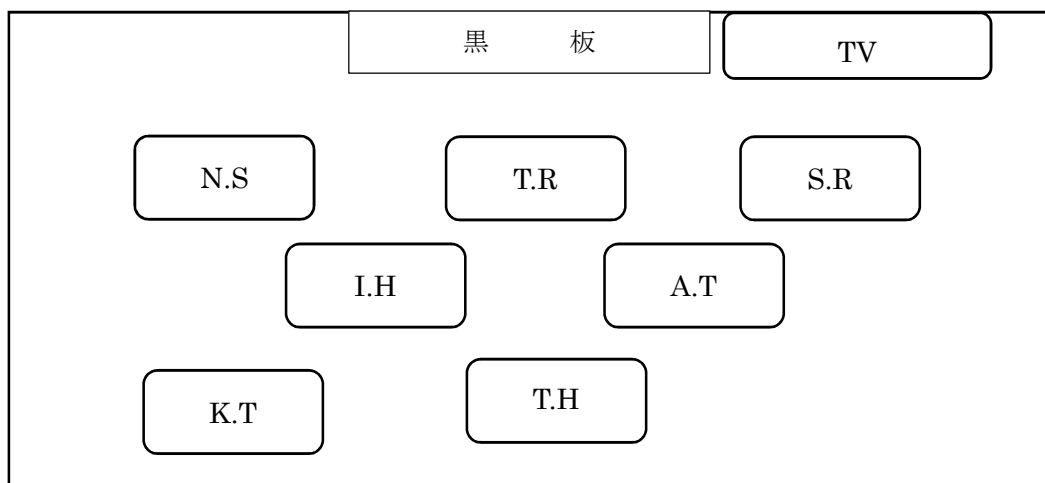
生徒	本時の個別目標		個別の手立て
A.T 【抽出】 （記録担当者）	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - 筆記具名を一つ知る。	- 指示を正しく理解できているか確認する（ワークシートの記入箇所等）。 - ルビ付きのワークシートで学習する。 - 英単語の記入の際、ルビを振らない語を読めるか、確認する。 - 応答の際、ごく簡単に答えてよいことを伝える。
	思・判・表	- ワークシートを見ながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 - 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
	主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
I.H	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - いくつかの筆記具名を知り、ワークシートに記入する。	- ルビなしのワークシートで学習する。 - 適宜、正しく読めているか確認する。 - 正しいスペリングで記入ができているか確認する。
	思・判・表	- ワークシートを用いながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 - 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
	主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
K.T	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - もっている物の数を答えることができる。	本人が取り組みそうな課題を選びながら、学習に参加するよう促す。
	思・判・表	教師と一緒に学習課題に取り組もうとすることができる。	
	主体的	教師と一緒に学習課題に取り組もうとすることができる。	
S.N	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - いくつかの筆記具名を知る。	- ルビなしのワークシートで学習する。 - 適宜、正しく読めているか確認する。 - 学習課題の優先事項を伝えたり、周りのペースに合わせて書写を行うよう言葉掛けをしたりする。
	思・判・表	- ワークシートを用いながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 - 周りのペースに合わせて書写を行うよう言葉掛けをしたりする。	
	主体的	周りのペースに合わせて書写を行うよう言葉掛けをしたりする。	
S.R	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - いくつかの筆記具名を知る。	- ルビなしのワークシートを用い学習するが、必要に応じてルビありのワークシートで読み方等を自分で確認できるようにする。 - 指示を正しく理解できているか確認する（ワークシートの記入箇所等）。 - スペリングや序数の書き方（second, 2nd）が正しいか確認する。
	思・判・表	- ワークシートを見ながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 - 日付を正しく板書することができる。 - 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
	主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
T.H 【抽出】 （記録担当者）	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - 興味のある筆記具名を一つ知る。	- ルビ付きのワークシートで学習する。 - 指示を正しく理解できているか確認する（ワークシートの記入箇所等）。 - 正しいスペリングで記入ができているか確認する。 - 応答の際、ごく簡単に答えてよいことを伝える。
	思・判・表	- ワークシートを見ながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 - 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
	主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
T.R	知・技	- 疑問詞(How many)の用法が分かる。 - 筆記具名を調べることができる。	- ルビ付きのワークシートで学習する。 - 効率的な単語検索が行えるよう援助する。 - 自信がもてるよう繰り返し学習する。
	思・判・表	- ワークシートを見ながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 - 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	
	主体的	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとすることができる。	

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ○：活動内容 ※：予想される生徒の言動 学びの場の設定【主】【対】【深】	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 (15) 分	1 挨拶	○：日直が挨拶をする。(「気を付け、礼。」) 英語で応答する。【主・対】	○：日直の生徒に言葉を掛ける。日本語での挨拶の後、英語で挨拶を行う(呼名等)。	△：MTに注目するよう促す。	・ワークシート(ルビあり・なし)を用意し、自分で選択し使用する。 ・教師用PC、TV等 ・WIFIルーター ・iPad(教師、生徒用)
	2 日付	※：ワークシートに日付を記入する。	○：「今日の曲」を流す。日付の記入、発音を確認する。	△日付等記入、または、タブレットを使用しているか確認する。	
	3 3 hints quiz (8分)	※：3ヒントクイズに取り組む。指名された生徒は答えを板書する。	○：クイズの質問文と答えを確認する。		
	4 前時の振り返り (5分)	○前時の学習内容を思い出す。【主】 ※：スライドを見て、前時の学習を思い出す。	○：スライドを提示しながら、学習内容を想起させる。		
	5 本単元の説明・12月の学習予定 (5分)	○12月の学習：Show & Tell【主】 ※：Show & Tellについて知っていることを発表する。 ※：Show & Tellを見る。 ※：疑問点や感想などを話す。 ※：12月の学習予定を知る。【主】	○：Show & Tellを知っているかどうかを聞く。 ○：Show & Tellを行う。 20日はクラスメイトの筆記具について発表することを伝える。 ○：学習予定を伝える。		
展開 (22) 分	6 本時の学習 (2分)	※：本時の目標を知る。【主】	○：本時の学習目標、内容を伝える。		【12月の学習予定】Show & Tell 2日：数を聞く表現と答え方を知る。 筆記具の名前を調べる。 6日：クラスメイトにインタビューをする。 13日：発表原稿を作る。 20日：Show & Tell(発表する。) *Jack 来校日 ・筆記具名は日本語で言う。
	7 疑問詞(How many)の用法と応答の仕方 (5分)	※：疑問詞(How many)の用法、応答の仕方を知る。 How many pencils do you have? I have (数).	○：疑問詞(How many)の用法、応答の仕方についてスライドで説明する。 ○：数のみを答えてもよいことを伝える。	△MT、TVに注目するよう促す。	
					【本時の目標】 ① 数を聞く表現と答え方を知る。 ② 筆記具名を調べる。 ・鉛筆

	8 言語活動（8分）	※：生徒同士、”How many pencils do you have? のやり取りをする。【主】 ※：全員とやり取りが終わった生徒は着席する。 ※：自分の持っている本数を答える。 How many pencils do you have? I have (数).	○：鉛筆を数本ずつ、配る。 ○：クラスメイト全員と質問をし合うことを伝える。 ○：一人ずつ、鉛筆の本数を尋ねる。	△適切にやり取りが行えるよう援助する。 【評価の場面】 ■言語活動（観察）	
	9 語彙調べ（7分） 9:33 まで	○：自分の持っている筆記具名をタブレットで調べてワークシートに記入する。【主】	○：筆記具名を調べるよう伝える。 ○：正しく検索できているか確認する。	○：正しく検索できているか確認する。 【評価の場面】 ■語句調べ（観察、ワークシート）	
まとめ (7) 分	6 本時の振り返り（6分）	○：本時の学習内容を振り返る。【主・対】 ○：本時の振り返り【主】（理解度、学習への取組、授業の難易度、覚えた語句）を記入する。	○：本時の学習内容を振り返る。検索した筆記具名を確認する。 ○：本時の学習の取組について振り返りシートに記入するよう伝える。	【評価の場面】 ■振り返り（観察、振り返りシート） △：MTに注目するよう促す。	
	7 次時の予告（1分）	※：次時の学習予定を知る。【主】	○：インタビューをすることを伝える。		
	8 挨拶	○：日直が挨拶をする。（「気を付け、礼。」）	○：日直の生徒に言葉を掛ける。		

(4) 配置図



① 教材・教具：

ワークシート（ルビあり・なし）／学習予定表（振り返りシート）／鉛筆（配布用）
 タブレット／生徒用 ipad／教師用 ipad／TV／HDMI ケーブル／WIFI ルーター
 筆記具（提示用：鉛筆・シャープペンシル・赤ペン・ボールペン・蛍光ペン・消しゴム・
 定規・修正テープ）

②板書計画

ショウ アンド テル
Show & Tell
 今日の目標
 「数を聞く表現と答え方を知る。」
Thursday, December 2nd, 2021
 ＊生徒が板書する。

今日の学習

- 1 日付
- 2 ヒンツ クイズ 3 hints quiz
- 3 前時の振り返り
- 4 12月の学習予定
- 5 今日の学習
- 6 振り返り

lemon
 ＊生徒が板書する。

(5) 本時の評価

知識及び技能	疑問詞（How many）の用法を知ることができたか。 筆記具名を知ることができたか。
思考力、判断力、 表現力等	数を聞く表現を理解し、質問したり、応答したりすることができたか。
学びに向かう力、 人間性等	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができたか。

(資料)

シ ヨ ウ ア ン ド テ ル
Show & Tell

マ イ ペ ン シ ル ケ ー ス
My pencil case

デ ィ ス イ ズ マ イ
This is my pencil case.

ア イ ハ ヲ
I have 1 (鉛筆)。

I have 1 (シャープペンシル) 。

I have 1 (赤ペン) 。

I have 1 (ボールペン) 。

I have 1 (蛍光ペン) 。

I have 1 (消しゴム) 。

I have 1 (定規) 。

I have 1 (修正テープ) 。

ラ イ ク デ ィ ス
I like this (消しゴム) 。

ビ コ ウ ズ イ ッ ツ キ ュ ー ト ウ
Because it's cute.

サ ン キ ュ ー
Thank you.

音楽科学習指導案

日 時 令和3年12月2日（木）2校時

場 所 音楽室

学 科 4科

学 年 3学年

指 導 者	教諭	高 橋 直 樹 (MT)
	教諭	蛭 沢 和 音 (ST1)
	教諭	住 谷 亮 (ST2)

1 単元名（題材名） 創作「作曲してみよう」

2 単元（題材）設定の理由

(1) 生徒観

本学年の音楽は、学年（4科）で取り組んでいる。生徒は知的障がいを中心とした発達障がいも併せもつ生徒が多い。

授業における取り組みでは、指示理解や音楽表現、技能に差はあるものの、明るい雰囲気ですべてまで粘り強く学習に取り組める生徒が多い。今まで、歌唱、器楽、鑑賞など、様々な学習内容を経験することで、音楽に対する興味関心の幅を広げながら、意欲的に学習に取り組んでいる。

しかし、教師の説明を理解し、それを表現することはできていても、自分の感じたことを表現することは難しかったり、様々な要因から、気持ちが不安定になったりする生徒もいる学習集団である。

(2) 単元（題材）観

ア「生活との結びつき」

既習した楽曲は、多様な方法で作られており、普段、身の回りにある音楽も生徒の生活に影響を与えたり、結びついたりしている。本単元を通し、音楽の構成や要素などを学習することで、音楽が生活や社会のあらゆる場面で結びつき、音楽に親しんだり豊かな情操を培ったりできる動機付けとする。

イ「何を学ぶか」

生徒が生活している場には様々な音や音楽があり、何気なく興味をもったり、気に入ったりすることがある。その理由は様々で、雰囲気やイメージもその一つとなる。学習指導要領では、創作活動について、いろいろな音の響きや組み合わせの特徴や、音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴を理解し、音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、表現活動を創意工夫することとしている。本単元では、音楽の構成がどのようになっているか、作曲を通してひととき、音の長さや高さなどの音の特徴や、音の素材が集まって音楽を形作っている要素が生まれ、その要素が相互に関連し音楽が構成され、聴く人によって様々な影響を与えていくことを学んでいく。

(3) 指導観（指導の工夫）

「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

楽譜や音符に苦手意識をもっている生徒がいるので、学習に取り組みやすいようタブレットを使用し、音の素材が集まっているアプリを使用して、簡易的に創作活動できるようにする。

主体性は生徒によって違うので、目標や課題解決の方法を明確にし、ST を効果的に配置することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

対話的な活動では、話す手順や内容をワークシートなどで整理してから活動に取り組めるようにし、グループや全体など、様々な形態で取り組むことで、お互いのよさや工夫を認め合うなど、活動を深め、前後の変容を振り返られるようにする。

音楽的な見方・考え方を働かせ、様々な働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受することで、生活や社会の音や音楽、また、音楽文化と豊かに関わられるようにする。

(4) 評価観

「何が身についたか」

本単元では、創作「作曲してみよう」の学習活動を通して、音のもっている特徴や、音楽を形づくっている要素を感じながら作曲活動をする学習である。その活動の中で、生徒自らがもっている音楽に対する感性を働かせ、音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものと捉え、自己のイメージや感情と関連付けることは、音楽的な見方・考え方につながり、音楽科を学ぶ本質的な中核をなす力となる。また、将来生活する中で、音楽を愛好する心情や音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことにつながっていく。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標
知識及び技能	探究協働	特高音ウ(イ)㉔㉕ ウ(ウ)	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	特高音ウ(ア)	音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	共通事項ア	音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。

4 指導計画（全5時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 学びの場の設定【主】【対】【深】	備 考
11/8(月)	1	・音楽の構成とは【主・深】 ・作曲アプリの使い方【主】	
11/15(月)	1	・作曲アプリの使い方【主】 ・メロディーの決定【主】 ・作曲活動【主・深】	

11/22(月)	1	・作曲アプリの使い方【主】 ・作曲活動【主・深】	
12/2(木)	1	・作曲した楽曲のまとめ【主】 ・曲紹介（グループ）【主・対・深】	本時（4/5）
12/6(月)	1	・曲紹介（全体）【主・対・深】 ・音楽とは【主・深】	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
普 K.K.	- どのような学習内容でも、目標を認識し、見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができる。 - 音楽的な知識はあまりないが、雰囲気やイメージを言語化したり、感じたりすることができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
普 S.T.	今年度は欠席の為、出席が一度もない。昨年度は数回の出席だったが、授業参加したときは、意欲的に取り組めることが多い。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。
		主体的	・支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
普 S.K.	- 授業内容が理解しにくい場合は、注意をひこうとする行動があるが、目標に見通しをもつと意欲的に学習に取り組むことができる。 - タブレットを使用するときは、支援を受けると創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。
		主体的	・支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
普 M.S.	- 音楽活動に興味関心が深く、家庭でも学習した楽曲をピアノで弾いたりすることがある。 - 音や音楽の素材を感じ取り、表現活動に取り入れることができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
普 Y.T.	- 音楽的な感性があり、意欲的に学習に取り組むことができる。 - 音の素材や要素などの特徴を感じ取り、楽曲にふさわしい音を選択することができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。

		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 S.A.	・目標や課題を解決しようと、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・時間はかかるが、タブレットの音の素材の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 S.K.	・気持ちが不安定なときは、遅刻したり、教室の端や別室で授業を受けたりすることがある。 ・タブレットの使用方法を理解し、音の特徴をつかんで創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 T.K. 【抽出】	・どのような学習内容でも、最後まで粘り強く、目標を達成しようと努力することができる。 ・音の素材の特徴を説明すると、イメージをもって創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 N.M.	・どのような学習内容でも、主体的に、既習した内容を生かして学習に取り組むことができる。 ・音や音楽の特徴を理解することで、雰囲気やイメージをもちながら創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 N.Y.	・目標を意識して、課題を解決しようと学習に取り組むことができる。 ・日常生活で聴いている音楽と関連させ、創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
生 H.T.	・音楽表現を自分なりに創意工夫し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・音や音楽に関する創造性が高く、雰囲気やイメージをもって創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
生 H.N.	・支援を受けると、学習内容に見通しをもち、活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができ

	音や音楽の素材の特徴を支援を得ることで理解し、創作活動に取り組むことができる。	思・判・表 主体的	- る。 - 音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。 - 支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
生 M.S.	- 気持ちのコントロールができないときは、意欲が低下し、授業に取り組めないことがある。 - 想定通りの活動ができないと納得できないことがあるが、タブレットを使用しての創作技術は高い。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
食 K.N	- 座席の環境によっては授業態度に差はあるが、理解力があり、音楽活動に創意工夫をこらし取り組むことができる。 - 音の素材を厳選したり、創意工夫をこらしたりして創作活動に取り組むことができる。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
食 S.Y	- 学習内容を把握し、課題に対する具体的な解決方法を理解すると主体的に活動に取り組むことができる。 - 音や音楽に対するイメージのきっかけを得ると、創作活動に取り組むことができる。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
食 S.S	- 学習環境で授業に取り組む姿勢に差はあるが、学習内容を理解し、課題解決に向けて取り組むことができる。 - 音や音楽の特徴にイメージや根拠をもち、創作活動に取り組むことができる。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
食 S.S	- 思ったことを言葉にだすことはあるが、課題を把握し、主体的に学習に取り組むことができる。 - 日常生活で聴いている音や音楽の内容を生かして創作活動に取り組むことができる。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
食 S.K	- 学習内容を把握し、課題解決に向けて努力し活動に取り組むことができる。 - 音や音楽の特徴に対する雰囲気やイメージを具体的に提示すると、創作活動に取り組むことができる。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に

			取り組むことができる。
食 T.S.	- 音楽活動の興味関心が高く、どのような学習でも、意欲的に目的をもって学習に取り組むことができる。 - 音や音楽に関する創造性が高く、雰囲気やイメージをもって創作活動に取り組むことができる。	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
食 H.K.	- 気持ちの落ち込みで意欲が低下することはあるが、主体的に活動に取り組むことができる。 - 音や音楽に関する素材の知識があり、創意工夫をこらして創作活動に取り組むことができる。	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
食 W.K.	- 周りの影響により、集中をそがれることはあるが、学習内容を理解し活動に取り組むことができる。 - 音や音楽の素材の特徴を理解すると、イメージをもって創作活動に取り組むことができる。	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
福 K.R.	- 学習活動の把握に努め、見通しをもって学習に取り組もうとすることができる。 - 音楽の構成や音の特徴を具体的にイメージすると、創作活動に取り組むことができる。	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
福 S.K.	- 意欲的に学習に取り組むことはできるが、活動内容を勘違いして活動に取り組むことがある。 - 音や音楽の素材の特徴を把握すると、主体的に創作活動に取り組むことができる。	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
福 S.Y. 【抽出】	- 意欲的に学習に取り組むことはできるが、学習内容がわからなくても質問や確認ができないことがある。 - 音や音楽の特徴を、支援を受けることで感じ取り、創作活動に取り組むことができる。	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。
		主体的	支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
福 T.S.	活動に消極的な場面も見られるが、見通しをもつと主体的に取り組むことができる。	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。

	課題解決の方法を、支援をうけると、主体的に創作活動に取り組むことができる。	思・判・表 主体的	- 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
福 T.Y.	- 学習活動を確認し、やるべきことに見通しをもつことで、主体的に活動に取り組むことができる。 - 音や音楽に関する感性が高く、音の特徴を把握すると、創意工夫をこらした創作活動をすることができる。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
福 N.T 【抽出】	- どのような学習内容でも、目標を認識し、見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができる。 - 音や音楽のもっている雰囲気やイメージを感じながら、創作活動に取り組むことができる。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
福 Y.S.	- 意欲的に学習に取り組むことはできるが、内容を自己解釈して取り組むことがある。 - 音や音楽のもっている特徴を意識しながら、創作活動に取り組むことができる。	知・技 思・判・表 主体的	- 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 - 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 - 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

知識及び技能	
思考力、判断力、表現力等	- 作曲した楽曲の特徴をまとめ、発表することができる。 - 音楽の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。
学びに向かう力、人間性等	音や音楽のもつ要素に興味関心をもち、音楽活動に取り組むことができる。

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	本 時 の 個 別 目 標		個 別 の 手 立 て
普 K.K.	知・技		- 楽曲の雰囲気やイメージが、どのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、発表できるようにする。 - 発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、よさや美しさを感じ取りながら聴けるようにする。
	思・判・表	- 作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 - 音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。	
	主体的	楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	
	知・技		本人の選んだ旋律の特徴を、選択肢

普 S.T.	思・判 ・表 主体的	・楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・から発表できるようにする。 ・予めポイントを絞って聴けるようにする。
普 S.K.	知・技 思・判 ・表 主体的		現場実習中の為、欠席。
普 M.S.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・ワークシートに記入した音や音楽の特徴のポイントをまとめ、発表できるようにする。 ・楽曲の特徴や聴いてほしいポイントに注目して聴けるようにする。
普 Y.T.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・音や音楽の素材から、生み出される特徴をまとめ発表できるようにする。 ・音や音楽の素材の特徴に注目して聴けるようにする。
生 S.A.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・ワークシートに記入している作曲をするために選んだ素材の雰囲気やイメージなどをまとめ、その特徴を発表できるようにする。 ・楽曲の特徴に注目し、聴けるようにする。
生 S.K.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・ワークシートから、楽曲の雰囲気やイメージのポイントをまとめ発表できるようにする。 ・楽曲の聴いてほしいポイントに注目して聴けるようにする。
生 T.K. 【抽出】	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・音の素材を選んだ理由やメロディーとの関係をまとめ、発表できるようにする。 ・発表者の楽曲のポイントからイメージをもちながら聴けるようにする。
生 N.M.	知・技 思・判 ・表 主体的		現場実習中の為、欠席。
生 N.Y.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	・楽曲の雰囲気やイメージがどのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、発表できるようにする。 ・発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、イメージをもって聴けるようにする。
生 H.T.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	・作曲する際に使用したワークシートに基づき、楽曲のよさや、聴いてほしいポイントを整理し、具体的に発表できるようにする。 ・本人の感性を尊重し、感じたことやイメージしたことを言語化しながら聴けるようにする。
生 H.N.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・ワークシートに記入したメロディーを選んだ理由や、他の音を選択した理由などを、支援を受けながら事前にまとめ、発表できるようにする。 ・予めポイントを絞って聴けるようにする。
	知・技		・ワークシートを基に、雰囲気やイメ

生 M.S.	思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・ ージ、工夫した点などのポイントを絞り発表できるようにする。 ・ 聴いてほしいポイントに注目しながら聴けるようにする。
食 K.N	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	・楽曲の雰囲気やイメージが、どのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、具体的に発表できるようにする。 ・発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、よさや美しさを感じ取りながら聴けるようにする。
食 S.Y	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・ワークシートに記入している作曲をするために選んだ素材の雰囲気やイメージなどをまとめ、その特徴を発表できるようにする。 ・発表者の楽曲の説明から、雰囲気やイメージをもって聴けるようにする。
食 S.S	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	・楽曲の雰囲気やイメージが、どのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、具体的に発表できるようにする。 ・発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、よさや美しさを感じ取りながら聴けるようにする。
食 S.S	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・ワークシートに記入した楽曲の特徴をまとめ、ポイントを絞り具体的に発表できるようにする。 ・発表者の聴いてほしいポイントをイメージしながら聴けるようにする。
食 S.K	知・技 思・判 ・表 主体的	・楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・今単元は、初めの参加となる。本人の選んだ旋律の特徴を、選択肢から発表できるようにする。 ・予めポイントを絞って聴けるようにする。
食 T.S.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	・作曲する際に使用したワークシートに基づき、楽曲のよさや、聴いてほしいポイントを整理し、具体的に発表できるようにする。 ・本人の感性を尊重し、感じたことやイメージしたことを言語化しながら聴けるようにする。
食 H.K	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	・ワークシートから楽曲のよさや美しさなどの特徴を整理し、具体的に発表できるようにする。 ・発表者の聴いてほしいポイントに注目し、イメージをもちながら聴けるようにする。
食 W.K.	知・技 思・判 ・表 主体的		現場実習中の為、欠席。
福 K.R.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・ワークシートから、楽曲の雰囲気やイメージを整理し、全体の構成にイメージをもち、発表できるようにする。 ・発表者の聴いてほしいポイントに注目しながら聴けるようにする。
福 S.K.	知・技 思・判 ・表 主体的	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組む	・音の素材を選んだ理由やメロディーとの関係をワークシートで確認してまとめ、発表できるようにする。 ・発表者の聴いてほしいポイントに注目し、イメージをもって聴けるよ

		ことができる。	うにする。
福 S.Y. 【抽出】	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。	・ワークシートに記入したメロディーを選んだ理由や、他の音を選択した理由などを、支援を受けながら事前にまとめ、発表できるようにする。
	主体的	・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・予めポイントを絞って聴けるようにする。
福 T.S.	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。	・ワークシートに記入したメロディーを選んだ理由や、他の音を選択した理由を事前にまとめ、発表できるようにする。
	主体的	・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・予めポイントを絞って聴けるようにする。
福 T.Y.	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。	・ワークシートに記入した楽曲の特徴をまとめ、ポイントを絞り発表できるようにする。
	主体的	・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	・本人の感性を尊重し、感じたことを言語化できるようにする。
福 N.T 【抽出】	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。	・楽曲の雰囲気やイメージが、どのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、発表できるようにする。
	主体的	・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	・発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、よさや美しさを感じ取りながら聴けるようにする。
福 Y.S.	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。	・音の素材を選んだ理由やメロディーとの関係をまとめ、発表できるようにする。
	主体的	・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	・発表者の楽曲のポイントからイメージをもちながら聴けるようにする。

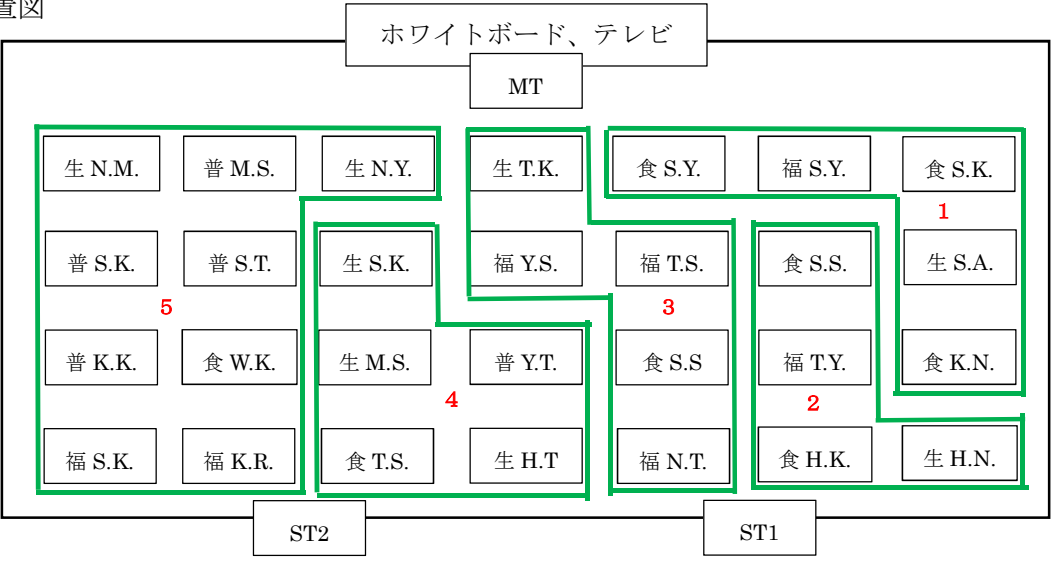
(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ○：活動内容 ※：予想される生徒の言動 学びの場の設定【主】【対】【深】	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、 教材等 特記事項(関連 チェック)
			MT	ST	
導入 10 分	1 号令、出席確認	○入室時に座席の確認、タブレットの準備 ○挨拶 普通科日直	○座席や持ち物の準備指示 ・タブレットは机の中に入れてもらうよう指示する。 ○挨拶後、出席確認を行う。	△座席の確認 △持ち物の確認 △学習を開始する姿勢や態度になるよう指示する。	
	2 前時の振り返り	○前時の学習内容を思い出す。【主】	○前回学習した内容を振り返る。 ・創作「作曲してみよう」について学習内容を振り返る。	△MT の話に注目できるようにする。	情報機器（テレビ、タブレット）
	3 本時の説明	○本時の学習内容を確認する。【主】	○日程確認 ・作曲した楽曲のまとめ ・曲紹介（グループ） ○本時の学習目標の確認	△MT の話に注目できるようにする。	情報機器（テレビ、タブレット）、ホワイトボード
		【本時の目標】 ☐ 作曲した楽曲の特徴をまとめ、発表することができる。 ☐ 音楽の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ☐ 音や音楽のもつ要素に興味関心をもち、音楽活動に取り組むことができる。			

展 開 35 分	4 作曲した楽曲の まとめ (17分)	○作曲した楽曲をまとめる。 【主】 ・MT の説明を受けた後、ワークシート3に作曲した楽曲を項目に沿ってまとめる。	○ワークシート3を配付し、楽曲をまとめる記入の仕方を説明する。 ・ワークシート2から、メロディーや使用した音の素材について全体的に、どのような雰囲気やイメージなどの特徴をもって作曲できたかを記入できるようにする。 ・雰囲気やイメージは、ワークシート2の例を参考に考えられるようにする。 ・工夫した点については、具体的な例はあまりあたえず、生徒独自のもっている感性を尊重する。 ・作曲した楽曲を聴き返しながらまとめられるようにする。 ～机間指導～ △良い取り組みを評価し、必要な援助をする。 ○記入の状況を見て、全体に確認することやアドバイスすることがあれば、記入を止めて説明する。	△ST1は主に女子、中央の男子、ST2は主に男子の記入を援助する。 △ワークシートの記入の援助として、言語化するための具体例や選択肢を、個別の目標に応じて行う。	ホワイトボード、ワークシート3
	5 曲紹介（グループ） (18分)	○作曲した楽曲をグループで紹介する。【主・対・深】 ・各グループに分かれ、それぞれ楽曲の説明をした後、紹介する。紹介者以外は、紹介された感想を記入する。	○グループを発表した後に、楽曲の紹介の仕方を説明する。 ・ワークシート3を基に雰囲気やイメージなどの特徴、工夫した点などを説明してから楽曲を紹介するよう指示する。 ・楽曲を披露するときは、数回又は、繰り返し再生するよう指示する。 ・感想を記入するときは、雰囲気やイメージは文章ではなく単語で、感想は友達の注目してほしいポイントを絞りながら記入できるようにする。	△ST1は女子、ST2は3グループの発表を援助する。 △ワークシートに記入している内容を基に、発表や感想を記入できるよう記入の具体例をあげたりしながら援助する。	ホワイトボード、ワークシート3
		【評価の場面】 ■ワークシートを基に、楽曲の構成や特徴の把握し、をまとめ発表できたか、また、楽曲の特徴を意識して聴けたかを確認する。			

ま と め 5 分	6 本時の振り返り	○本時の目標を振り返る。	○本時の目標について、ポイントを基に振り返る。	△MT の話に注目できるようにする。	ホワイトボード
	7 次時の予告	○次回の学習について理解する。	○全体での曲紹介、音楽の構成について学習することを伝える。	△MT の話に注目できるようにする。	
	8 号令	○挨拶 普通科日直 ○タブレットをしまう。	○タブレットをしまい退出するよう指示する。	△片付けの確認	

(4) 配置図



(5) 本時の評価

知識及び技能	
思考力、判断力、 表現力等	・ 作曲した楽曲の特徴をまとめ、発表することができたか。 ・ 音楽の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができたか。
学びに向かう力、 人間性等	・ 音や音楽のもつ要素に興味関心をもち、音楽活動に取り組むことができたか。

理 科 学 習 指 導 案

日 時 令和3年12月2日(木) 3校時

場 所 理科室

学 科 食品デザイン科

学 年 1学年

指 導 者 教諭 渡 部 一 博 (MT)

教諭 山 本 正 彦 (ST1)

1 単元名(題材名) 「【物質・エネルギー】水溶液の性質」

2 単元(題材)設定の理由

(1) 生徒観

本学級は男子6名、女子2名の計8名で構成されている。8名中2名は欠席が多く、これまでほとんどの授業を6名で実施している。授業ではタブレットを活用しているが、全体的に文字の入力や写真撮影などの機器の扱いについて基礎力が身に付いている。実験や観察では積極的に取り組むことが多く、理科に対しての関心は高い。授業時に理科に関連した報道記事を取り上げるようにしているが、直接生活に関連した話題でなければ興味をもたないことも多く、話題提供にとどめるようにしている。一部、集中力に欠ける生徒もいるが授業に対する取り組み姿勢は、活気があり質問に対する反応が良く、記述や入力も概ねできている。

(2) 単元(題材) 観

ア「生活との結びつき」

理科の区分「物質・エネルギー」の“水溶液の性質”を題材に取り上げた。学習指導要領では水溶液の性質について、水溶液には酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。水溶液には気体が溶けているものがあること。水溶液には、金属を入れると金属が溶けて気体を発生させたり、金属の表面の様子を変化させたりするものがあること。など、溶けているものによる性質や働きの違いについて理解すること。と、ある。本単元では“水溶液の性質”を知ることが、安全で健康、便利な生活に繋がることを理解し、生活の中で生かせるようにすることをねらいとしている。具体的には、洗剤の「まぜるな危険」や虫歯の予防、クエン酸や重曹の使い方などを水溶液の性質である酸性、アルカリ性及び中性と関連させることで生活と結びつけている。

イ「何を学ぶか」

今回の単元で目指すのは、日頃生活の中で目にする事象等について原理・法則を知識として学ぶだけでなく、生徒が理科の見方・考え方を働かせ、観察、実験を行うことなどを通して、問題を科学的に解決できる資質・能力を身に付けることに重点を置いた。具体的には①将来の社会生活の中で疑問に感じたことを理科的な見方・考え方で問題解決できるように、既習事項や生活経験を基に客観的に比較したり確かめたりする技法。②分からないことを調べる方法や他者の意見を聞きながら自分の予想と比べ、より妥当な考えを作り出そうとする姿勢や力。について学習を通して身に付けさせたい。また、安全・健康・便利に暮らすために主体的に理科的な視点から解決しようとする姿勢や解決方法を学ぶなかで、1つの原理法則が生活の様々なことに関連していることに気付き、より興味や関心が高まることで新たな疑問が生じたときに、主体的に調べたり学習したりすることでより深い学びに繋げられるような姿勢を身に付けさせたい。

(3) 指導観（指導の工夫）

理科の授業を行うにあたり、これまでの課題として、授業時数に対して学習内容が多く、実験・観察を柱として、種明かしの原理法則を教師側から一方的に教えることが多く、知識・技能の観点に配分が偏りがちであった。本単元では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指すために、生徒の能動的な活動を多く取り入れることを考えた。ある事象について観察する場合、教師からは生徒が観察するために必要なヒントを示すにとどめ、どこを見たらよいか分かった生徒が自分の目で違いに気付く自分の言葉で表現したことをグループ内で共有することで確信または見落としていたことに気付くことができる。新しい知識に関する情報は最小限にとどめ、できるだけ既習事項や生活経験から知っていることを問題解決に生かせるようにアドバイスし、生徒は他者との話し合い、調べることで考察できるよう促すことに徹する。限られた時間の中で効率的に意見共有や調べる道具として、また観察記録や資料の整理のためタブレット端末を活用する。タブレット端末は単体でも活用するが、授業中は基本的にクラウドに接続し、配布資料や意見共有や課題の提出を行う。クラウドを活用することで、振り返りや欠席時の授業内容を校外からでも確認することができる。

(4) 評価観

観点ごとの評価について、「知識・及び技能」については、毎授業で行っているグーグルフォームによる確認テストで知識の定着や理解度を、実験や観察の取組の中で器具を正しく取扱うことができるかなどについて評価する。「思考力・判断力・表現力等」については、既習事項や生活経験を基に考えようとしているか、他者の意見を取り入れたり調べる中で正しい情報を選択したりして、考えをまとめ表現できているか、タブレットで自分の意見を表現できているかなどを評価する。「学びに向かう力、人間性等」については、実験や観察に主体的に取り組むことができているか、これまでに学んだことや経験で知っていることを関連させて考えようとしているか、分かったことを生活の中で生かしていこうと思うことができるかなど、授業内の発言や単元のまとめで感想を書くことで評価する。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	高理2Cイ(ア)㉔㉕㉖	水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。	・ 毎回の確認テストで知識の定着を確認。 ・ 指示通りに適切な方法で実験を行うことができる。(観察、振り返り)
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	高理2Cイ(イ)	水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。	適切な方法で調べ、自分の考えを記述したり発言したりできる。(観察、記述)
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	高理2Cウ	水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。	水溶液の性質を生活の中で生かしたり活用したりすることができる。(観察、記述)

4 指導計画（全 10 時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 学びの場の設定【主】【対】【深】	備 考
8/31(火)	1	洗剤の「まぜるな危険」について正しい知識を確認する【主・対】	
9/7(火)	1	塩素系洗剤と酸素系洗剤の成分について成分表を見て酸性かアルカリ性かを確認する。【主】 酸性とアルカリ性の特徴について知る。	
9/14(火)	1	酸性の液体「酢」に生卵と 10 円玉を漬ける実験を行う。【主】	
9/21(火)	1	実験の考察。酸性の液体がカルシウムを溶かすことを酸性雨、虫歯予防に関連させる。【主・対・深】	
11/2(火)	1	・酢に漬けた 10 円玉を観察し何が起こったか自分の言葉で表現し、スプレッドシートで共有する【主・対】	
11/9(火)	1	・10 円玉に起きたことを考えるために必要な情報を調べる。【主・深】	
11/16(火)	1	・10 円玉に起きたことをこれまで学習したことと、調べたことを関連させて妥当な理由を考えてまとめることができる。【主・対・深】	
12/2(木)	1	・食器用洗剤の液性について考える。【主・対】	本時（8/10）
12/7(火)	1	・界面活性剤について考える。【主・対・深】	
12/14(火)	1	・アルカリ性の重曹と酸性のクエン酸の使い分け方を考える【主・深】	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
KR	・理科に対しての関心は高く主体的に取り組むが、分からないことを聞けず記述など表現するまでに時間がかかることがある。また、手指の巧緻性が低く実験器具の取り扱いに時間が掛かる。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。
SK	・理科に対しての関心が高く実験や調べ学習、記述などすべて素早く取り組むが雑なところや、説明を最後まで聞かず指示と違う授業と関係ないことをすることがある。タブレットの使い方は慣れている。	知・技	・水溶液の性質について知り、観察・実験などに関する初歩的な技能について落ち着いた丁寧に取り組むことができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。
SS	・この単元では出席していない。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。
TW	・一見関心が低いように見えるが、理科に興味はある。自信が無いため質問ができずに作業に時間がかかったり、分かっていないのに頷いたりすることがある。発言は得意ではないが、記述では自分の考えを伝えるこ	知・技	・水溶液の性質について知り、観察・実験などに関する初歩的な技能について自信をもって取り組むことができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、自分の考えをつくりだし表現することができる。

	とができる。タブレットの入力は苦手。	主体的	・水溶液の性質について、 学んだことと生活を関連させよう とすることができる。
TT	・この単位では1時間しか出席していない。経験や知識が比較的豊富なため途中から参加しても授業の理解度は高い。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。
TR	・理科に対しての興味関心は高く、授業中の態度はとても熱心に見えるが、分かっていなくても質問ができないため、指示しても行動に移せないときがある。	知・技	・水溶液の性質について 知り 、観察・実験などに関する初歩的な技能について 自信をもって取り組む ことができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、 自分の考えをつくりだし 表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、 学んだことと生活を関連させよう とすることができる。
YT	・理科への興味関心は高く実験や課題に熱心に取り組むが、集中力が続かず、時折落ち着きのなさや自信の無さが見られたり、周りから活動が遅れいらいらしたりすることがある。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付け、 自信をもって落ち着いて取り組む ことができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。
YK	・理科への関心が高く活発に発言することが多く、実験などは熱心に取り組む。時折ふざけた内容の発言をしたり体調や授業者に対しての苦手意識からか授業中に教室を離れたりすることがある。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付け、 落ち着いて最後まで集中して取り組む ことができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	食器用洗剤の液性について、これまで学習したことを基に調べることができる。	・リトマス紙で液性を調べることができるか。 ・説明書きから液性を確認しようとする。
思考力、判断力、表現力等	・液性を調べる方法について意見を述べたり、他者と共有したりすることができる。 ・食器用洗剤が汚れを落とす仕組みについて、妥当な答えを調べまとめることができる。	・これまでの学習を基に自分の意見を表現することができる。 ・インターネットを活用して調べる場合に、より正確な情報を得ようとする。
学びに向かう力、人間性等	主体的にタブレットを活用したり実験に取り組んだりして、課題を解決しようとする。	・タブレットを適切に活用できている。 ・実験に主体的に取り組むことができる。

(2)個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

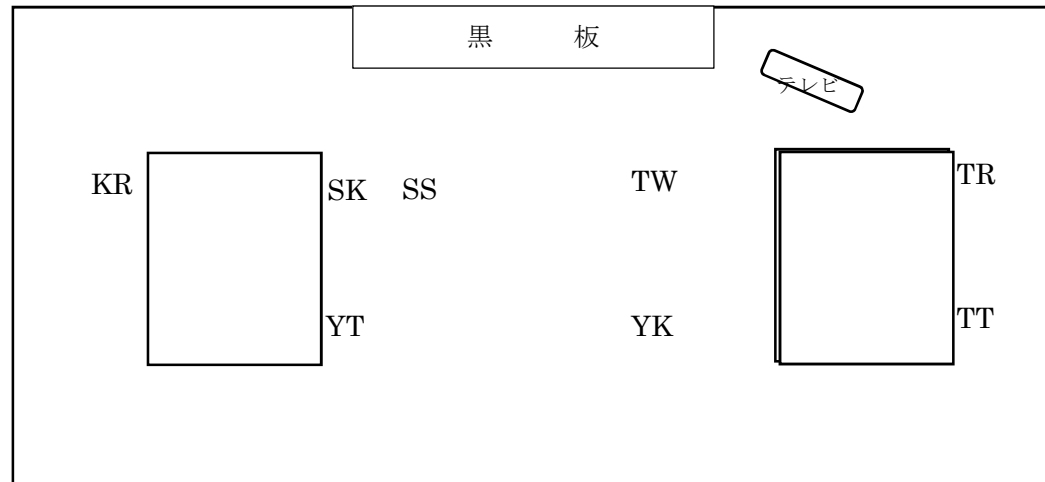
生徒	本 時 の 個 別 目 標		個 別 の 手 立 て
KR	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	- これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 - クラウド上の記述は何でもいいこと、同じ意見でもいいことを伝える。
	思・判	・クラウド上に意見や分かったことを記述して、仲間と共有することができる。	
	・表 主体的	・タブレットを使って進んで調べようとしたり、進んで実験に取り組もうとしたりすることができる。	
SK	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	過去のクラウドを自由に見てよいこと、説明をよく聞いて落ち着いて取り組むように言葉を掛ける。
	思・判	・クラウド上に意見や分かったことを記述して、仲間と共有することができる。	
	・表 主体的	・進んでタブレットを活用して調べたり実験に取り組もうとしたりすることができる。	
SS	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	欠席機関の学習内容をクラウドを活用し、本時の活動に必要な資料がみられるように支援する。
	思・判	・クラウド上に意見を記述して、仲間と共有することができる。	
	・表 主体的	・進んでタブレットを活用して調べたり実験に取り組もうとしたりすることができる。	
TW	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	- これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 - 自信をもって記述したり実験に取り組んだりできるような言葉掛けを行う。
	思・判	・自分の意見をクラウド上に入力し述べることができる。	
	・表 主体的	・自信をもって進んで実験に取り組もうとすることができる。	
TT	知・技	・洗剤の液性についてリトマス紙を適切に使って調べることができる。	これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。
	思・判	・クラウド上に意見や分かったことを記述して、仲間と共有することができる。	
	・表 主体的	- 調べたことを基に食器用洗剤が汚れを落とす仕組みについて考えることができる。 - 主体的にタブレットを活用したり実験に取り組んだりして、課題を解決しようとするすることができる。	
TR	知・技	・洗剤の液性についてリトマス紙を適切に使って調べることができる。	- これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 - 指示したことを理解できているか、言葉掛けをするなどして確認を行うようにする。
	思・判	・自分の意見をクラウド上に入力し述べることができる。	
	・表 主体的	・説明をよく聞き進んでタブレットを活用して調べたり実験に取り組もうとしたりすることができる。	
YT	知・技	・洗剤の液性についてリトマス紙を適切に使って調べることができる。	- これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 - 自信をもって記述したり実験に取り組んだりできるような言葉掛けを行う。
	思・判	・自分の意見をクラウド上に入力し述べることができる。	
	・表 主体的	・自信をもって進んでタブレット端末を活用して調べたり実験に取り組もうとしたりすることができる。	
YK	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	- これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 - ST が注意を払いながら、適度な言葉掛けで授業の最後まで取り組めるようにする。
	思・判	・自分の意見をクラウド上に入力し述べることができる。	
	・表 主体的	・授業の終わりまで進んで学習しようとする姿勢でタブレット端末を活用したり実験に取り組もうとしたりすることができる。	

(2) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 学びの場の設定【主】【対】【深】	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 (5分)	1 号令	・Googleclassroom に接続する【主】	○タブレットをクラウドに接続するよう指示	○必要に応じてクラウドへの接続支援	・テレビ、iPad
	2 前時の振り返り	●前時の学習内容を思い出す。 ・Googleforms で振り返る。【主】	取組状況と提出状況を確認 ■正答率と取組状況から総合的に評価する		
	3 本時の説明	●今日の学習内容を知る ・Googleclassroom で今日の学習内容を知る。 【本時の目標】 食器用洗剤の液性を調べる。油汚れが落ちる仕組みを考える。	○Googleclassroom に予め本日の学習内容を示しておく。	○生徒がタブレットで指示した通り取り組んでいるか確認	・ワークシート
展開 (00分)	4 液性を調べる方法の確認 (5分)	●食器用洗剤の液性を調べる方法をこれまでの学習内容を基に適切な方法を生徒が考え、スプレッドシートに入力することで共有する。【対】 ・生徒はクラウド上のスプレッドシートに自分の考えを入力し、他者と共有する。思いつかない場合は、他者の意見からヒントを得る。	○洗剤や酢、清涼飲料水などの液性を調べて、特に酸性の水溶液の性質について学習してきたことに触れ、本日の学習では食器用洗剤を扱うこと、まずは液性を調べたいことを説明。 ■スプレッドシートに自分の意見を入力出来たか	○タブレットの操作やスプレッドシートの入力支援。 △集中できない生徒の支援	予めスプレッドシートを作成しておく
	5 実験① (5分)	※生徒からリトマス紙を使う方法と洗剤の容器に示された説明書きから判断する方法が意見として出る予定 ●洗剤容器の説明書きを代表者が写真に記録し、クラウドで共有する ●テーブルごとにリトマス紙で液性を調べる。比較のため水道水と洗剤を調べる、結果を共有する	○生徒から出た意見を基に、調べる方法を指示する ■主体的に実験に取り組むことができているか、必要に応じて他者と協力できているか	○実験用具の配付と実験の支援	洗剤、水道水 リトマス紙 ピンセット シャーレ キッチンペーパー

	6 考察	●経験的に食器や弁当箱の油污れは水やお湯だけでは落ちないことを共有し、食器用洗剤は酸性でもアルカリ性でもないが油污れを落とすことができるはなぜか考える。また、どうしたら解決できるか考える。 ※既習事項から Google で調べるなど。 ●このとき正しい情報を得るためのキーワードを考える	○食器用洗剤の液性が水道水と同じ中性であることを確認。水だけで油などの汚れを落とせないことを経験から確認。油などの汚れが落ちる理由を問いかける。既習事項や経験で分からないことをどう解決するかも投げかける。		
	7 調べる	●身近な調べる方法であるインターネットで情報を検索する。 「洗剤 汚れが落ちる仕組み」など ●発信している機関、キーワードを共有※界面活性剤	○インターネットで調べる場合は、公的機関が発している情報かが一つのポイントとなることを説明。 経済産業省「よごれが落ちるしくみ」	検索のキーワードなど支援	
	8 実験	●調べた結果、洗剤に含まれる界面活性剤が汚れを落とす成分だと分かる。界面活性剤が入っているか成分を確認する→最初にとった写真から ●水と油と界面活性剤で実験を行う。 ①水と油だけでは混ざらない ②水と油に界面活性剤(洗剤)を入れると混ざる	○水と油だけでは混ざらないことを確認。 ○最初に撮影した容器の説明書き写真を開き、編集のマークアップ機能で界面活性剤をマーカーなどで印をつける	iPad の使い方支援	
まとめ (00) 分	9 本時の振り返り				
	10 次時の予告		○界面活性剤について実験を行う。1円玉を10枚くらい持ってくること。		
	11 号令				

(3) 配置図



(4) 本時の評価

知識及び技能	・ Googleforms で振り返ることができたか。 ・ リトマス紙を使った実験を適切に行うことができたか。 ・ タブレットを適切に活用することができたか。
思考力、判断力、表現力等	・ 洗剤の液性を調べる方法をこれまでの学習を基に考えることができたか。 ・ 中性の洗剤が汚れを落とす仕組みについて、適切な方法で調べ妥当な答えを得ることができたか。 ・ 自分の考えを記述したりクラウド上に入力したりすることで他者と共有できたか。
学びに向かう力、人間性等	・ 進んでタブレットを活用したり実験に取り組んだりすることができる。 ・ 主体的に調べたり、互いの意見を伝え合ったりすることができる。

校内研究会 研究授業研究協議記録

日時：令和3年12月2日（木）14：25～

場所：本校体育館

1 研究協議

(1)外国語

【授業者より】

- ・ 普段と違う場所や時間で取り組んだが、集中していた。
- ・ 3ヒントクイズへの取り組み方もいつもと異なっていた。
- ・ 曜日が違ったが、事前に調べてきていた。
- ・ 音楽をかけ始めたのは最近である。時間の始めにかけようとした。音楽によって集中が途切れる様子はみられなかった。
- ・ 基本的な事項を一つ一つ行った。単元デザインや授業の構成を考えながら取り組んだ。単元の目標を最初に伝えていなかったが、伝えることで見通しをもって学習できるようにした。
- ・ 授業は概ね予定通りに進めることができた。
- ・ 参観者がいないときはもっと自由にやりとりができています。
- ・ 展開では普段と大きく変わらなく出来ていたと感じる。
- ・ 後半では、タブレットの使用は教育効果が高いと感じるが、正しい使い方を伝える必要がある。
- ・ ゆっくり学習する生徒にとっては、課題の量が多かったと感じた。

1 つめは単元の目標を明示することの有効性

2 つめに集団の中で個々への教えるための方法について、ご意見をいただきたい。

【生徒の様子】

- ・ Tさんは、チャイムと同時に姿勢を正していた。3ヒントクイズを早く終えても教師がすぐに指示を出していた。言語活動では、テレビを見ながらやりとりしており、そのうちにテレビを見なくてもやりとりできるようになった。早く終えたため、文房具以外のものを調べていた。読み方を自分で訂正し、学んで振りかえることができていた。
- ・ Aさんは、積み重ねていることが学習に生かされていると感じた。主体的～について、他者の発言を聞いて自分の意見を修正しようとする姿が見られなかった。鉛筆を何本もっていたのかを忘れてしまうことがあった。指示されたことをしっかりと聞いて学習に取り組むことができていた。

【質問・意見】

- ・ 私が担当している美術と異なり、英語は目標が特殊だと思う。最終イメージはどんなのかについて聞きたい。
- 記憶が難しいので、将来、外国人に会ったときになんとかコミュニケーションをとろうとすることだと考えている。YouTube を英語で見るなど言語を身近に感じている。学習方法を学ぶことが目標

であると考えている。

- ・単元題材の目標の提示について、デザインや学びを共有することが大事だと感じた。終わりの部分で目標をどのようにして評価するのか。

→自己評価を ALT による他者評価をしていきたいと考えている。

- ・英語の独自性で、普段と異なる言語で表現することに抵抗がある生徒もいただろうが、先生が和やかな感じで進めていたことで明るい雰囲気であった。主体的に活動するためには材料が必要で、一つ一つが積み重なることで勉強したことで表現できるようになると感じた。
- ・生徒が落ち着いていた。本来は実態差があるのだろうが、普通に組み合わせていたことが素晴らしいと感じた。
- ・実態差についてのところでは、答え方を伝える際に複数のパターンを提示されていたことで配慮されていると感じた。
- ・普段よりも頑張っていた様子だった。間違ってもしゃべるようにと伝えている。
- ・タブレットを使用して生活に根付いた学びをしていると感じた。辞書で調べたことがあるのか、選択肢を用意しておくなどするとどうかと感じた。タブレットがなくても学べる環境があっても面白いと感じた。

(2)音楽

【授業者より】

- ・創作の作曲を授業した。卒業単元に向けて、これまでの学習を生かしていけるようにと本単元を設定した。
 - ・主体的～について、見通しにポイントを絞った。普段の授業から、ホワイトボードに目標を書いて提示している。
 - ・語彙は少なくし、発言しやすい環境作りを行っている。
 - ・音楽的な見方、考え方、感性を働かせて聴くことを伝えている。
 - ・言語活動と問題解決活動を行った。課題を解決するためにはというところで伝えている。
 - ・やったことを積み重ねる学習になる。タブレットを使用することに苦手意識のある生徒もいるので、音楽的なことは少なくしている。
 - ・ワークシートを使用して説明しながら進めた。自分の感性で能動的な活動ができた。イメージを膨らませられたと感じる。発表の仕方もよかった。タブレットの画面を回して見せるなどの生徒の様子も見られた。
- ① 学年で学習をする際のベースの置き方、援助の工夫
 - ② 評価の仕方、どのような工夫をしているのかなどについて聞きたい

【生徒について】

Tさんについて

- ・姿勢を正して聞いていた。
- ・言葉掛けに答えていた。
- ・プリントに記入出来ていた。

- ・分かりやすくまとめていたが、先に曲を流してしまい、発表があとになっていた。

Sさんについて

- ・指示をよく聞いており、MTを注目していた。
- ・ワークシートへの記入の際には、STの言葉掛けが必要な様子が見られた。

Nさんについて、

- ・元気でパワーのある授業だった。対話をしていると感じた。
- ・一斉授業の中での難しさがあり、授業計画を苦労されていたと思うが、それを感じさせない授業であった。
- ・指示通りに活動できていた。
- ・曲紹介のときには、いいまとめ方をしていた。
- ・曲を聴き終えた際には、最初に話し始めるなどグループを進めようとしていると感じた。
- ・もっとやりたかったという発言があった。

【質問・意見】

- ・アプリで作曲する工程はどのようなものか。

→ガレージバンドの5つのメロディから選択する。見本を示してから行った。失敗することはほとんどないようなアプリである。自分でメロディを選ぶことで曲を作る。

- ・体育からの視点では、興味関心を重要視している。グループ分けについても、バランスを考えて混ぜている。少し頑張ると達成できそうな目標を設定するなどしている。家庭で取り組む生徒がいると、主体的に学ぶ機会になるのではないかと考えている。
- ・美術では、全員が取り組みそうなものを行っている。発展性のある課題などを設定する。難易度が高くなると説明が多くなり、伝えたことを忘れてしまう生徒が出てくる。
- ・評価に関して、音楽では一人では見られないので、STに見てもらいながら行っている。プリントの整理についての言葉掛けが大変勉強になった。言葉掛けの仕方について気を付ける必要性について感じた。
- ・音楽で事実と感性を分けるとより深い学びになるのではないかと感じた。

(3)理科

【授業者より】

- ・研究授業の実施により、授業を考え改善するきっかけとなった。
- ・8名のクラスで2名欠席がちである。抽出生徒の一人が欠席であった。緊張していたようだが、始まるといつも通りであった。
- ・授業改善を意識した。ICTを活用することも意識しての授業であった。
- ・理科に興味関心のある生徒が多い。実験などを行うと主体的に取り組む。
- ・理科的な視点から法則や知識を知ることによって生活に役立つという流れがこれまでの展開であった。
- ・驚きと楽しみはあるが、身についてはいないことが反省点だった。

- ・題材は同じでも、ねらいを考える中で疑問をもつ、関心をもつなどしてどのように解決するかを考えることを目標にしていこうと考えた。
- ・ネットの情報の中からどれが信頼できるのかを知ることができるようにすることも伝えている。
- ・道具として ICT を組み入れて、タブレットも筆記具と同じ感覚で使えるようにと考えている。
- ・授業の中では、ここは ICT でなくてもいいと感じる部分もあった。なるべく活用することを目指しているが、ICT の活用についてご意見をいただきたい。
- ・対話の深まり方について、ご意見をいただきたい。

【生徒について】

Tさんについて

- ・発問に対し、少しずつ表情も柔らかくなり、声が大きくなった。
- ・サイトについて、タブレットを見て打ち込むことは記憶できず、難しい様子だった。ワークシートに記入してから打ち込む様子が見られた。

【質問・意見】

- ・自分も見ているワクワクするような授業であった。ICT も活用されていて、勉強になった。知的好奇心をもたせることで成長していくと感じた。ICT の活用について、生徒の様子から手で触って確かめる経験が少ないと感じる。リアルに感じる部分と ICT の活用のバランスが良かったと感じた。
 - ・学びの過程では、意識されていることを聞きたい。
- 使用してみても効果は生徒の活動内容として、発言することに抵抗のある生徒でも他の生徒の意見をみて自信をもって発言できる。発言した内容が消えずに残る。
- ・自分の意見を入力することで、書字や発言が苦手な生徒でも取り組むことができる。iPad の使用で良い点と難しい点を聞かせて欲しい。
- 使っていないと分からないことがある。始めは面倒だと思うが、便利さを感じて欲しい。クラウドに資料を載せると自分のタイミングで資料をみることができる。しかし、まだ見せる予定ではない情報を先に見ることもできてしまう。そのやりとりに課題があると感じる。

2 助言 アドバイザーより

- ・外国語は主体的を具現化した授業であった。目標を提示し、ペアを変えていくなどしていた。
- ・音楽では、手立てが細やかで感銘を受けた。音楽のイメージを言語化するのは難しいと思ったが、いくつもの手立てをとっていた。サンプルの用意や単語でよいという言葉掛けによって、書くことができていた。
- ・理科では、子供の生活課題に即した内容であった。授業の作り方、組み立て方が素晴らしかった。
- ・3人とも素晴らしかった。カリマネの視点で、知的障害のある生徒の学習特性としては、知識の断片化、生活に応用できない、抽象的思考が難しい、経験が少なく、意欲的に取り組めないなどがある。高等支援学校の生徒への授業ではつい、忘れがちであるが、十分に配慮が必要。
- ・見通しは大前提であるが、興味関心が必要である。入り口になる。
- ・対話の仕方が明示されていた。フリーでの対話する前にロールモデルを学ぶ必要がある。基礎基本が

大切だと感じた。

- ・発表が大事だと思う。言語での発表もあるが、クラウド上での発表なども方法である。
- ・手立てについて、生徒の強みが大事である。趣味趣向を含めて手立てに生かせることが必要。
- ・弱さについて、配慮をいかにしていくか。補っていけるようにしていく必要がある。
- ・手立てについて、評価をすることが必要になる。目標を達成できなかったとき、それは手立てが適切ではなかったのかもしれないという視点が必要である。
- ・生徒の生活に生かせる学習内容を設定することが必要である。
- ・なぜ、その指導をしているか、エビデンスが大事になってくる。認知的な特性になるかもしれない。
- ・PDCA サイクルは通常教育であり、特別支援教育では、アセスメントが必要である。得意なこと、苦手なことを把握しておくことが必要である。
- ・教材、教示の分かりやすさが大事である。
- ・常に授業改善をする視点をもつことが大事である。